

変わりがたカラ情報

発行元 十島村教育委員会

〒892-0822 鹿児島市泉町13番13号 099-227-9771

E-mail toshima-ky@tokara.jp

一隅を照らす十島の教育

十一月・・・遠回りの道 十島村教育長 原口 英典

定年退職した年のある日、私は県立鶴丸高校の前を通ったことがあった。正門横の塀には、その高校生が書いた「書」のボードが飾られていた。その中の一つに次のような文言が書かれていた。それは、ニーチェの言葉から採ったものであった。「良いことへの道」というタイトルの後に「すべての良い事柄は、遠回りの道を通して、目的へと近づいていく」と。

何によらず「早(速)く」を求められてのこれまでの生活。家にあっては、「早く起きなさい」「速く食べなさい」「早よ、せんか」等々。「早く・・・速く・・・」の連続。この高校生にしても、親の期待に応えるべく「はやく」という近道を模索しながらも、きっと傍(はた)から見ても能率の悪い、無駄の多い日常生活だったのであるまいか。

そんなどちらかという自己否定的な毎日だったのが、この一文との出会いによって、肯定的に自分を価値づけられた瞬間。そうだ、遠回りも悪くはないぞ。迂遠(うえん)、高遠、深遠、という字も「遠」という字を使うではないか。「急がば回れ」とも謂(い)うではないか。最も高遠な価値は、最も遠回りの道中に潜んでいるのでは・・・。あの子は、そんな思いに駆られてあの一文を「書」に書く題材として選んだのであろうか。

「スピード(はやく)」という価値にとどまらず、「遠回り」ということの価値も、自分の生き方の根底としての軸足の一つに、バランスよく引き寄せてみるべきことを改めて考えさせられたあの日であった。

そういえば、サッカーの長谷部誠選手は、その著「心を整える」の中に、「超訳ニーチェの言葉」を読んで、「脱皮して生きていく」の項目にドキッとしたりと書いている。その長谷部選手も、同著の中に、遠回りの効用として、「孤独に浸(つ)かる」(短時間でもいい一人の時間[立ち止まり]を作る)ことを勧めている。

遠回り・・・私の脳裏には、昔懐かしい「月がとって青いから 遠回りして帰る・・・」という歌もよみがえってくる。今の人は、前田敦子さんの「遠回り」という曲だろうか。

【平成24年度人権週間12月4日～10日】

みんなで築こう 人権の世紀
～ 考えよう相手の気持ち 育てよう思いやりの心 ～

【としまファミリー劇場盛大に】

平島でのファミリー劇場は、11月10日(土)に、島唄者坪山豊さんと崎向りつ子さんを迎えて、平島小中学校体育館において開催しました。



お二人による島唄やおはら節等の熱演に会場の43人の皆さんは、すっかり魅了され、最後の六調では踊りも飛び出し、大変盛り上がりしました。

夜は、Uターンの日高勇喜夫さんと山海留学生の大屋敷歩君の歓迎会に同席させていただき、親しく懇親を深めることができました。

諏訪之瀬島でのファミリー劇場も、11月10日(土)に、島唄者永志保さんと重山茂仁さんを迎えて、諏訪之瀬島小中学校体育館において開催しました。



奄美の島唄を初め、諏訪之瀬島分校の校歌等13曲の熱唱に、会場の40人は拍手喝采。

また、合間に児童生徒を対象に三味線や太鼓の実演講習があり、その後、演奏に合わせて、合同でのおはら節を全員で賑やかに踊り、盛会でした。

【平成24年度県優秀教職員表彰】

宝島中学校 教諭 二宮浩一先生

【入賞おめでとうございます】

- 第22回夏休み昆虫研究大賞
優 秀 賞 ・西 いつき(悪石島小6年)
長畑直和賞 ・西 いつき(悪石島小6年)
- 第60回理科研究記録展
入 選 ・永吉美遥(口之島小2年)
・永吉美悠(口之島小4年)
- 第60回学校新聞コンクール
3 席 ・宝島小中学校

- 佳 作 ・口之島小中学校・小宝島分校
第55回県児童生徒作文コンクール
- 入 選 ・永吉美遥(口之島小2年)・山元悠希(口之島小6年)・原 成美(諏訪之瀬島分校5年)
- 第49回南日本硬筆展(9・10月号に続く)
- 推 薦 ・鶴長瑠子(悪石島小5年)
- 金 賞 ・西 えほん(悪石島小2年)
- 銀 賞 ・鶴長俊太郎(悪石島小5年)

【絆】シリーズ 山海留学生として学ぶ

宝島での6か月を振り返って その1
立尾 陸 現在中3年生<熊本市>(宝島中2年生時)

僕が、宝島に来てから6か月が経ちました。そして、今まで過ごしてきた熊本にいた頃とは大きく変わりました。どう変わったかということ、熊本にいた頃は、寝る時間も遅く、時間もばらばらでしたが、宝島では、寝る時間が早くなり、朝もあまりきつなくなりました。そして食生活でも、好きな時に、好きなものだけ食べるのではなく、決まった時間に規則正しく食べられるようになり、改めて食の大切さやありがたさが分かりました。

また、学校生活では、毎日朝から学校に登校することもできたし、しっかりと勉強することで、成績も向上してきました。授業では、特に、技術の物作りに興味をもって取り組みました。定期テストの結果は、熊本にいたときと比べてずいぶん上がりました。5教科の力を沢山つけることができました。

次に、頑張ったことは、トイレ掃除と植物栽培です。トイレ掃除は、校舎や体育館のトイレの便器をブラシでいねいに磨きました。熊本では、先生が来たときだけ、見せかけで掃除をしていましたが、宝島では、先生方も一緒に掃除をするので、きちんとやることができました。植物の栽培では、学校で育てるパンジーやサイネリア、ペチュニアの世話をしました。水をあげたり、肥料をあげたり、天気の良い日は外に出して日光にあてたりしました。植物の栽培は、時間がかかり根気がいります。面倒くさかったけど努力をしないと育たないことが分かりました。育てた花は、卒業式や入学式にも飾られます。(続く)

【子どもたちの作品】

司会者になって
諏訪之瀬島分校小学校 5年生 原 成美

5年生の授業で、「豊かな言葉の使い手になるために」という学習がありました。これは、討論をする授業です。

しかし、島に同級生はいないため、テレビ会議システムを使って、口之島と中之島の人たちと、討論会をすることになりました。

私は、司会をしました。初めての司会で、とてもきちょうしました。もし司会者になってもあせらないようにと、いちおう練習はしたのですが、いざとなると、覚えていたはずの文も、あまり思い出せませんでした。それでも、口之島や中之島の人が、積極的に質問や意見こ

うかんをしてくれたので、スムーズに進めることができました。その時は、なんだかホッとしました。最後に司会者は、みんなの考えをまとめなければなりません。しかし、自分ではうまくまとめられなく、けっきょく、共通点などを見つけてくださったのは、先生でした。

この授業を通して、私は、自分のためにたくさんの人が協力してくれているんだということを知りました。だから、これから私は、ふだんから感謝の気持ちを持って過ごし、また、自分も他の人の役に立てるような生活を送りたいです。

【 子供のうた 】 南日本新聞「子供のうた」
<H24.10.17> より

すいとう
有馬 凜 小宝島分校小2年生

わたしはいつも ずうっとつめたくて こおりのはいったいけに いれてもらえる	そのすいとうを もっている人にいけを のまれてしまうけど のんだあとはあったかいから 「ありがとう」といえる
--	--

十島村の小・中学校からのメッセージ

中之島小・中学校
教諭 海老原 悠

離島赴任は二回目です。退職まで勤務校も残すところあと1・2校となり、もう一度離島で仕事をしたいと思い立ち、昨年度中之島小学校に赴任しました。本校は、児童生徒10人程度の極小規模ですが、どの子も明るく素直な子たちです。一年目は6年生1人の担任、二年目の今年は4・5年生の変則複式で2人の担任となりました。一回目の種子島と違い、学校規模が小さく複式の指導に不安もありました。しかし、子どもたちの方が複式の授業になれていて、1時間の授業目標と計画さえしっかりしていれば大丈夫、不安もなくなってきました。

本校の教壇に立ち、特に感じることは児童生徒の理解や意欲に合わせて、その子なりのペースで授業をすすめることです。「個に応じた指導」が言われて久しいですが、30人以上の学級では習熟の程度の差もさまざまで進程も考慮しなければならず、個に応じることの難しさを感じていました。ここでは集団ではなく、個そのままなので1対1で授業を進められます。

また、小中校併設であることから中学校の理科の授業も担当しています。より高度な科学の話題に触れたり、小中の学習内容を系統的に教えたりできて、小中連携・接続の重要性を感じています。

生活面では、急ぎの物を除いて生協購入や家族からの仕送りですべてのことはありません。何よりも眼前に広がる東シナ海、後ろに広がる雄大な御岳、頭上には野鳥たちのさえずりと、自然の好きな私にとってもってこいの場所です。このような自然の「気」の流れを肌で感じると、もの見方や考え方も変わってくる気がします。すばらしい大自然に癒される豊かな毎日です。

教職員仲間である「あなた」へのメッセージ
ここでの生活は不安もあると思いますが、それ以上にやりがいのあるところです。また、初めて経験することも多く、発見の連続です。ここで子どもたちとともに過ごし、新たな自分を発見してみませんか。